

第2回研究会

**「琵琶湖を中心とする循環型自然・社会・文化環境の
総合研究」プロジェクトの最終とりまとめに向けて**

牛尾洋也・村澤真保呂・宮浦富保・丸山徳次・鈴木龍也・田中 滋・遊磨正秀
伊達浩憲・中川晃成・林 珠乃・越川博元・石塚武志・渡辺めぐみ・江南和幸
好廣眞一・猪谷富雄・占部武生・池田恒男・秋山道雄・高桑 進・須川 恒
岩瀬剛二・西脇秀一郎・太田真人・野間元綺

本研究会は普段のものとは異なり、里山学研究センターの研究員のみでの開催となった。主なテーマは、現行プロジェクトの最終年度にあたりどのようにまとめていくか、プロジェクトのひとつの目的である「琵琶湖イニシアティブ」をどのようにまとめるかについて話し合われた。

はじめに丸山研究員より「里山モデル（持続可能社会の里山モデル）」について資料を用いて説明があった。そのなかで鍵となるワードが9つ（①利用による保全、②多様性、③自然適応的・順応的（合自然的）技術、④再生可能性・再生可能資源、⑤有限性の自覚、⑥日常性、⑦関係性、⑧風土性・場所性、⑨コモンズ性（共同性・協働性）（社会的共通資本））挙げられた。これらを基に議論が行われた。

次に牛尾センター長から「琵琶湖水域圏」について昨年度に刊行した資料集『目で見ると琵琶湖水域圏一人と自然となりわいと一』に収録されている「琵琶湖水域圏概念の位置づけ―資料集刊行に寄せて―」を用いて改めて説明が行われ、水域圏の概念について話し合われた。

最後に「琵琶湖イニシアティブ」についてまず、牛尾センター長、宮浦副センター長、鈴木研究員、伊達研究員、遊磨研究員、田中研究員から各自の見解が報告された。その後、太田博士研究員と野間研究補助員がまとめた滋賀県等で挙げられている提言についてまとめたものが報告された。これらを踏まえ「琵琶湖イニシアティブ」をどのようにまとめていくか各研究員から意見を出し合い、話し合った。そしてこれらを踏まえて各研究員がそれぞれの専門分野でどのように「琵琶湖イニシアティブ」についてつなげていくことが出来るかについて報告し、終了した。